
死までの7日間

鵜磨史駝遊喜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

死までの7日間

【Nコード】

N8736D

【作者名】

鷗磨史駝遊喜

【あらすじ】

2XXX年世界は犯罪で満ち溢れていた。犯罪が集団で行われるようになったからだ。その集団を取り締まるのが我らのような私立探偵。この小説はある一人の探偵の死刑までの7日間を描いたものである。

プロローグ 犯罪だらけ

プロローグ

2XXX年

世界は犯罪で満ちていた。警察なんてものは役に立たず犯罪は増える一途を辿っていた。

犯罪が増えたのは、犯罪を個人が犯すのではなく、集団で私利私欲のために犯すのである。

そういった集団を犯罪組織といい、世界には溢れるほど存在する。その犯罪組織を取り締まるのが我らのような私立探偵だ。

私立探偵が犯罪組織を壊滅させると国から一生遊べるほどの金もらえる。犯罪組織が増えるのに比例して私立探偵も爆発的に増えた。

私立探偵にも位があつてAからCまでの探偵がいる。C級探偵は強盗や詐欺などの事件、B級探偵は殺人や不正取引、A級探偵は国を動かすような大事件をそれぞれ取り締まる。

犯罪組織を壊滅させると位が高くなりA級探偵になるとそこの国会議員とかよりも権限が高くなる。

やがて世界は二分した。

犯罪組織に入るものと私立探偵になるもの。

前者は私利私欲のために犯罪をして儲ける。

後者は犯罪組織を壊滅させて儲ける。

どちらともリスクがある。

私立探偵をやつてるもので悪人を罰したいという理由で探偵をやつてるものなんてほんの一握りである。

実際、そのほんの一握りがA級探偵になれる。

そして俺は大国から依頼がくるような名の知れた探偵に登りつめた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8736d/>

死までの7日間

2010年10月17日16時53分発行